

心理学部研究紀要の発刊にあたって

心理学部長 高橋 憲 男

多種類の学術雑誌が刊行されている中での、心理学部の研究誌を発刊する意味を考えさせていただきます。

まず、心理学という名称の謂れです。一つは国際心理学会議が、心に関する生物学的・社会学的、正常・異常、理論・応用の全ての領域を含む学問領域として心理学を位置づけていること、もう一つはアメリカの心理学協会が心理学関連領域の研究、理論、応用領域の学術雑誌としては Psychological Science を発刊していることによります。具体的には、認知科学、神経科学、言語学、社会科学が Psychological Science に含まれます。

次に、心理学部がこの北海道医療大学に作られた理由は、広重学長（現学長・理事長）が書かれた冊子『ほんとうの健康ってなんだろう。優しい医療ってなんだろう』に明らかです。これからの医療を担う人材の養成を考える時、理系と文系の乖離をそのままにすることの問題、医療における心の問題の重さ、心に科学的視点から取り組まなければならないこと、人の心を結ぶコミュニケーション手段のひとつ「言語」に心の科学の視点からアプローチしていくこと、ゲノム研究が進み身体的個体差が明らかにされる今だからこそ、これらの問題の重さを認識しなければならず、この重責を担わなければならない学部として心理学部が作られたのです。

個体差に関しては、主に身体的な側面に関して個体差研究センターと個体差医療科学センターが担っています。心理学部の役割はますます重要です。研究の出発点をはっきり認識して、荒削りであっても新しい視点をいつも発信できる雑誌となることを願います。